門学校	開講年度	平成29年度 (2	1017年度)	授業科目	英語 II B(日下)	
0046			科目区分	一般 / 必	· 修	
授業			単位の種別と単位数	效 履修単位:	3	
			対象学年	2		
			週時間数	3		
教科書: MY WAY English Communication I			(Workbookを含む)(三省堂)『機関銃英語が聴き取れる!: リスニン			
日下 隆司						
			売み、そして聞く能力	つを身につけ、	異文化理解を通じて、コミュニケーシ	
Ð	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
習明 スー 原言・ジネヤ	習存では、 習存では、 では、 では、 では、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に	重りない。 重りないでは、 はうズないでは、 がにんがよっているがいでいるがにのでいるがよっているがよっでいるがいでいるがいでいるがいでいるがいでいるがいでいる。 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、 でいるでは、 でいるでいるでは、 でいるでは、	英語の発音・アクセントの規則を習得して適手に関係して適手によって通明を引きるようでは、一切ではある。 対しているのでは、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切では、一切		英語の発音・アクセントの規則。 習得して運用したがに、からの規則。 明で間ででは、からのででは、からのでででは、からのででは、からのでは、からのでは、からのでは、からのでは、からのでは、からのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	
り、現のでもしてるで作る者と	毎分100語等 一となり かと要な情報に かと要な情報に かと要な情報に かい語の のの語うに のの語うに のの語うに のの語うに のの語うに のの語うに のの語うに ののます。 のものます。 のものまで。 のものまで。 のものまで。 のものまで。 のものまで。 のものまで。 のものまで。 のものまで。 のものまで。 のものまで。 のものまで。 のものまで。 のものまで。 のものまで。 のものまで。 のものまで。 のもの。 のも	上のされています。 とのさとするでは、 とするのでもでものがをにるとうできまるのででもっていまでできれいででできれいでできまった。 とうとうできまできれいでできまれいでできるとでいるとでいるとでいまります。 というでは、 というでは、 というでは、 というでもいった。 というでもいった。 というでもいった。 というでもいった。 というでもいった。 というでもいった。 というでもいった。 というでもいった。 というでもいった。 というでもいった。 というでもいった。 というでもいった。 というでもいった。 というでもいった。 というでもいうではいるというでは、 というでもいうでもいった。 というではいるというではいる。 というでものできない。 というではいるというではいる。 というではいるというではいる。 というではいるというではいる。 というではいるというではいる。 というではいるというではいる。 というではいるというではいる。 というではいる。 というではいる。 というではいる。 というではいる。 というではいる。 というではいる。 というではいる。 というではないる。 といるではない。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではないる。 といるではない。 といるではない。 といるではない。 といるではないるではない。 といるではない。 といるではない。 といるではない。 といるではない。 といるではない。 といるではないる。 といるないる。 といるなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	日常生分100語程度である。 日常生分100語程度の速度でありとした発音で話されり、3.0語音で話されり、4.0が要な情報の変更を把握などできるのではいかの変更を把握などできるができ分100語うではいるででは、一次ではいるでは、100元を出すができる。またというでは、100元をというでは、100元をというでは、100元をというできる。100元をというできる。100元をというでは、100元をというできる。100元をというできる。100元をというできる。100元をというできる。100元をというできる。100元をはいるできる。100元をは、100元をというできる。100元をというできる。100元をは、100元をは		日常生活や身近な店でできりばない。 田常生活や身近な店でであれた。 中毎分100語程度の速たものの内部 田本の内でである。 の要な活音で聞きとりない100語を把握するどの間きを毎分100語を一度のである場でであります。 を把握するどの間きに高とからである場でである場でである場でである。 できない、文章をに高とないできないできないとではできない。 でもいるでは、まないでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まないのでは、まない。 日常生活である。 日本語のである場でである。 日本語のでは、まないのできないのできない。 日本語のでは、まないのできないのできない。 日本語のでは、まないのできない。 日本語のできない。 日本語のできない。 日本語のでは、まないのできない。 日本語のできない。 日本語のできない。 日本語のできない。 日本語のできない。 日本語のできない。 日本語のできない。 日本語のできない。 日本語のできない。 日本語のできない。 日本語のできない。 日本語のでもない。 日本語のできない。 日本語のできない。 日本語のでもない。 日本語のでは、	
	それぞれの国のなどない、その違いではい、その違いできるが必要であるが、その国のないでは、価値観なるを自分たちの文化を対しています。	文化や歴史に敬意 いたでけ入れる寛 いたでとを認識しな ることを認識しな 生活習慣や宗教的 どの基本的な事象 とと関連付けて説	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明し、解釈できる。		それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事象を自分たちの文化と関連付けて説明も、解釈もできない。	
			, , ,			
教育方法等 『英語 I A B 』で学習した知識・技能を活用して、幅広い話題について読んだり、聞いたりする能力を養うとともに、異 概要 で学習した知識・技能を活用して、幅広い話題について読んだり、聞いたりする能力を養うとともに、異 文化に対する理解を深め、将来国際的に活躍できる技術者として、積極的にコミュニケーションの手段である外国語を 注明しようとする能度を育てる。						
・すべての内容は, 学習・教育目標(A) <視野> <意欲>及び(C) <英語>に対応する. ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする.						
・<到達目標の評価方法と基準>「授業計画」の「到達目標」1~7を網羅した事項を定期試験、及び授業中に行われる小テスト等の結果、オンライン学習システムを利用した語彙テストや課題等で目標の達成度を評価する。1~7の重みは概ね均等である。4回の定期試験の結果を6割、授業中に行われる小テスト等の結果、課題等を4割とした総合評価において6割以上を取得した場合を目標の達成さする。・<学業成績の評価方法および評価基準>求められる課題の提出をしていなければならない。4回の定期試験の平均点を60%とし、小テスト及びその他課題の評価を40%とし、その合計点で評価する。ただし、各定期試験で60点に達していない者には再試験を課す場合がある。再試結果が該当する成績を上回った場合には、60点を上限としてその試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。・<単位修得要件>学業成績で60点以上を取得すること。また定期的に実施される語彙確認テストにおいて、6割以上正解すること。・<あらかじめ要求される基礎知識の範囲>英語IABで学習した英単語、熟語、英文法の知識・・<レポート等>授業に関連した小テスト及び課題(レポート等)を課す・・<備考>自己学習を前提とした規定の単位制に基づき授業を進め、課題等の提出、及び小テストを求めるので、日常的に英語に触れる習慣を身につけ、毎回の授業分の予習をした上で、積極的に授業参加すること。授業には必ず英和辞典(電子辞書可)を用意すること。						
	Total	0046 授業 生物に	回46 授業 生物応用化学科 通年 教科書: MY WAY English Communication II 教子書: MY WAY English Communication II を英語の発音: MR WAY English Communication II を英語の形式になる。 理想的な到達レイルの日安 規語の正本語語のの規葉を関いておいたにはいる。 「本語ののおりていた。 MR 書 MY でするののおいた。 NA できる。	20046 料目区分 単位の種別と単位を 地位の種別と単位を 地位の種別と単位を 地位の種別と単位を 地域の種別と単位を 大野語 大野語	世期の年期と単位数 歴修単位: 全物応用化学科 対象字年 2 通年 単位の種別と単位数 歴修単位: を	

週ごとの到達目標

授業計画

週

授業内容

		1週	序論(授業の進め方,勉強の仕方,評価方法)	〈英語運用能力〉 1.「授業内容」に示した教科書の英文の内容が理解できる。 2. 英文の内容に関して簡単な質疑応答が英語でできる。 3. 教科書の英文に使用されている英単語・熟語の意味を理解し、使用できる。 4. 英文を内容が伝わる程度に朗読できる。 5. 既習の英語表現を使用し、基本的な英文が作成できる。 <文法に関する理解〉 6. 上記[授業の内容]にあげた文法事項を理解し、応用できる。 〈宮藤彙力〉 7. 3000語レベルの英語語彙の意味が理解できる。			
		2週	Lesson 1 Pictograms (1)	上記 1 ~ 7 ①SVC/SVOの文型を理解し、使うことができる。 ②SVO(O=if節)の文型を理解し、使うことができる。			
	1stQ	3週	Lesson 1 Pictograms (1)	上記1~7 ③SVC (C=分詞) の文型を理解し、使うことがでる。			
		4週	Lesson 2 New Year's Celebrations (1)	上記1~7 ①SVO102(O2=if節)の文型を理解し、使うことができる。 ②SVO102(O2=that節)の文型を理解し、使うことができる。			
		5週	Lesson 2 New Year's Celebrations (2)	上記1~7 ③it seems that~をを理解し、使うことができる。			
前期		6週	Lesson 3 Eco-friendly Inventions (1)	上記1~7 ① <it is="" to不定詞="">の構文を理解し、使うことができる。 ②形式目的語 <to不定詞>の構文を理解し、使うことができる。</to不定詞></it>			
		7週	Lesson 3 Eco-friendly Inventions (2)	上記1~7 ③形式目的語 <that節>の構文を理解し、使うことが できる。</that節>			
		8週	中間試験	これまでに学習した内容を説明し,解を求めることができる.			
		9週	中間試験の解答解説	上記1~7 中間試験までの内容の総復習			
	2ndQ	10週	Lesson 4 Brazil- Far away or Close (1)	上記 1 ~ 7 ① < S+V+O+C [動詞の原形]> の構文を理解し、使うことができる。 ② < S+V+O+C [過去分詞]> の構文を理解し、使うことができる。			
		11週	Lesson 4 Brazil- Far away or Close (2)	上記 1 ~ 7 ③ <s+v+o+c [過去分詞]="">の構文を理解し、使うことができる。 ④ <help+o+動詞の原形>の構文を理解し、使うことができる。</help+o+動詞の原形></s+v+o+c>			
		12週	Reading The Cat (1)	上記1~7 代名詞などに注意を払いながら物語を読み進め、その 内容をとらえることができる。			
		13週	Reading The Cat (2)	上記1~7 感嘆をあらわす表現や既習の文型・文法を使った文章 を読みこなすことができる。			
		14週	Lesson 5 Eye Contact (1)	上記1~7 ①関係代名詞(主格)を理解し、使うことができる。 ②前置詞+関係代名詞を理解し、使うことができる。			
		15週	Lesson 5 Eye Contact (2)	上記1~7 ③関係代名詞の非制限用法を理解し、使うことができる。 ④関係副詞の非制限用法を理解し、使うことができる。			
		16週		F=2.1 o. 7			
後期	3rdQ	1週	前期末試験解答解説、夏休みの課題解説	上記1~7 前期の総復習と夏休み課題テストの実施。			
		2週	Lesson 6 Space Elevator (1)	上記1~7 ①現現在完了形を理解し、使うことができる。 ②現在完了進行形を理解し、使うことができる。			
		3週	Lesson 6 Space Elevator (2)	上記1~7 ③過去完了進行形を理解し、使うことができる。 ④未来進行形を理解し、使うことができる。			
		4週	Lesson 7 An Encouraging Song (1)	上記 1 ~ 7 ①推量を含む現在のことがらについて助動詞mayを含む英文を理解し、使うことができる ②推量を含む過去のことがらについて <may+have+過去分詞>を含む英文を理解し、使うことができる</may+have+過去分詞>			

	5週	Lesson 7 An Encouraging Song (2)	上記 1 ~ 7 ③ <would like="" to+動詞の原形="">を用いて、丁寧さなどを示す表現を英文を理解し、使うことができる ④推定を含む過去のことがらについて <seem to<br="">have+過去分詞>を含む英文を理解し、使うことができる</seem></would>			
	6週	Lesson 8 Language Contacts (1)	上記1~7 ①現在の事実に反することがらなどを仮定法過去を理解し、使うことができる。 ②過去の事実に反することがらを仮定法過去完了を理解し、使うことができる。			
	7週	Lesson 8 Language Contacts (2)	③仮定法の条件節に相当する内容(ifを使わない)を理解し、使うことができる。 ④譲歩を含む内容を <no matter+疑問詞="">を理解し、使うことができる。</no>			
	8週	中間試験	これまでに学習した内容を説明し、解を求めることができる.			
	9週	中間試験の解答解説	上記1~7 中間試験までの内容の総復習			
4thQ	10週	Lesson 9 Charles Chaplin (1)	上記1~7 ①2つのことが同時に起こっている状態について、分詞構文を理解し、使うことができる。 ②受け身の内容をもつことがらを過去分詞で始まる分詞構文を理解し、使うことができる。			
	11週	Lesson 9 Charles Chaplin (2)	上記 1~7 ③主節の述語動詞よりも以前のことがらを <having+過去分詞>の分詞構文を理解し、使うことができる。 ④2つのことが同時に起こっている状態について、 withを含む英文を理解し、使うことができる。</having+過去分詞>			
	2 12週	Lesson 10 The Five-story Pagoda of Horyuji (1)	上記1~7 ①同格を表すthatを使って説明し、まとまった内容の 文章を理解し、使うことができる。 ②倒置を使って説明し、まとまった内容の文章を理解 し、使うことができる。			
	13週	Lesson 10 The Five-story Pagoda of Horyuji (2)	上記1~7 ③省略を使って説明し、まとまった内容の文章を理解し、使うことができる。 ④強調構文を使って説明し、まとまった内容の文章を理解し、使うことができる。			
	14週	Reading A Letter to Italy (1)	上記1~7 代名詞などに注意を払いながら物語を読み進め、その 内容をとらえることができる。			
	15週	Reading A Letter to Italy (2)	上記1~7 既習の文型・文法を使った文章を読みこなすことができる。			
	16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週			
評価割合	T					

評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
配点	60	40	0	0	0	0	100